



# 母子保健奨励賞 毎日新聞社賞

## 受賞おめでとうございます

母子保健奨励賞並びに毎日新聞社賞を受賞して

群馬県歯科衛生士会

副会長 入山 久美子

(社)富岡甘楽歯科医師会

主任歯科衛生士

このたびは栄誉ある母子保健奨励賞並びに毎日新聞社賞をいただき、驚きとともに関係各皆様に心から感謝申し上げます。11月24日、東宮御所において皇太子様へのご接見を許され、翌11月25日、14名の受賞者とともに東京ガーデンパレスにて授賞式を催していただき、夢のような2日間を過ごしてまいりました。

私は、昭和53年に歯科衛生士として地域の一般歯科診療室に勤務しました。当時はまさに「むし歯大国日本」というに相応しく、連日患者が押し寄せ、待合室から溢れ出すという状況でした。治療してもまたむし歯になる、また治療するという「追いかっこ」の状態です。「予防」の重要性を身にしみて感じ、公衆衛生的施策が必要と考えたものです。結婚を機に退職し、群馬県歯科衛生士会の一員として地域の歯科保健活動に従事

し、平成8年から(社)富岡甘楽歯科医師会に勤務しました。県の南西部に位置する富岡甘楽地区は、乳幼児のむし歯罹患率が県内で最も高く、歯科医師会と管内市町村で乳歯のむし歯予防対策を検討していました。歯科健診と歯科保健指導の充実に加えて、フッ化物歯面塗布と家庭でのフッ化物利用を組み合わせた乳歯のむし歯予防事業を、平成5年度までに管内全市町村で開始しました。むし歯罹患状況の大幅な改善は、充実した歯科保健指導による保護者の意識の変化、フッ化物歯面塗布による「歯質強化」、家庭でのフッ化物利用の普及による相乗効果だと思えます。現在は、各市町村が実情に即した乳歯のむし歯予防事業を実施しているため、子供の口腔内からむし歯が消えつつあります。さらに、保育園・幼稚園では乳臼歯と幼若永久歯のむし歯予防対策としてフッ化物洗口をいち早く実施し、継続されています。歯科関係者と地域が一丸となり目標に向かい努力し、素晴らしい成果を得たこと、その一助になったことを大変光栄に思っ

います。また、近年は最も公衆衛生的なむし歯予防対策であるフッリデーション(水道水フッ化物濃度調整)の実現に向けた啓発活動も行っています。

今回の受賞で、自分がいかに恵まれた環境にいるかを改めて実感しました。理解ある職場、志を同じくする多くの仲間が存在、歯科衛生士会活動に役員として参加できたことすべてに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

人生を豊かに自分らしく生きてゆかために、お口の健康は欠かせないものです。今後とも誰もが一生涯口からおいしく楽しく安全に食べるために、

### 母子保健奨励賞表彰式

母子保健の発展と向上に活躍した個人をたたえる第33回母子保健奨励賞(母子衛生研究会主催、厚生労働省・全国衛生部長会・毎日新聞社・NHK後援、日本ケミカルリサーチ協賛)の表彰式が25日、東京都文京区の東京ガーデンパレスであった。同研究会・母子保健功労顕彰会の北村正任会長から受賞者15人に表彰状が手渡された。

毎日新聞社賞を受賞した歯科衛生士、入山久美



左より▽助産師、鹿野恵美さん(49)▽長野県、同中央▽管理栄養士、西本裕紀子さん(46)▽大阪府、同右に、河野俊史毎日新聞取締役・編集編成担

当から表彰状とブロンズ像が贈られた。受賞者を代表して鹿野さんは、「自己研さんを続けながら母子保健活動に取り組む所存です」と語った。受賞者は前日の24日午後、東宮御所を訪れ、皇太子さまからお祝いとお励ましを受けた。



微力ですがより一層の努力を続けていきたいと思えます。